

実践記録 シリーズ 105

町村合併『ふるさと学習館』を中核に

阿賀町公民館三川分館 主任 西川 利之

1. 合併の課題

町村合併後に生じた大きな問題として、旧町村間における生涯学習の推進方法に大きな違いがありました。旧三川村の生涯学習は集落の公民館主導型で、他の町村は中央公民館型生涯学習です。双方ともに一長一短でしたが、将来の統合のことを考え中央公民館型へととなりました。このことで、阿賀町公民館三川分館では、地域の活力（集落毎の公民館活動）の良さを残しながら、新たに町公民館主導型の生涯学習を推進していく課題が発生しました。

2. 合併後の公民館事業をスムーズに移行させるための問題点

①集落毎の公民館活動へ町の財政支援が出来なくなったこと。（合併後は他分館との整合性にも鑑み、財政的な支援は無しとなった。）②一カ所に集める公民館講座に馴染んでいないため、新たな取り組みの必要があった。③小学生を対象とした講座が定着しておらず、送り迎えの問題もあった。④町村合併と同時に廃校となった旧三川小学校の後利用。



3. 課題への取り組み

①町全体の調整作業

課題を克服するための最初の取り組みは、各分館（旧町村）の調整であった。講座受講料の問題、各集落の公民館への関わり方など、新年度に入り町公民館（本館）の担当は、各分館の担当を集め調整に大変苦慮していました。

これらの努力があって、4月からは早速、本館・分館ミーティング会議が月1回開催され、各分館行事の打ち合せ・協力調整等を会議で行うなど、新しい町の公民館は常に連絡調整が図られ、スムーズに一体化を成すことができました。

②ふるさと学習館への取り組み

三川分館では、他の分館との連絡調整を図りながら、分館独自の問題克服のため、児童を中心とした公民館活動の強化を図りました。その目玉が「ふる



さと学習館」の立ち上げであります。「旧小学校（廃校）→ふるさと学習館」、「校長先生→館長先生」名前は違っても、信頼のおける校長先生が館長を勤めることで、集まってくる児童・保護者には安心して講座を受けられる環境が整ったといえます。

しかし、運営面の問題で当然のことながら、児童が学校にいる時間中は、誰も「ふるさと学習館」に来ないことでした。そこで、平日の午後、活動の活性化を図るため、一般向け講座の開設を考えるが「何をすれば人が集まるか？」も難しい問題でした。幸いにも、本館館長には版画といった特技があり、公民館講座で版画教室を開催することになりました。思ったとおり参加者の心を掴み、今では、公民館講座から自主活動にまで移行しつつある状況となりました。

次に、最近人気の絵手紙を始めることにしました。これも、近くの人々が集まり、まずまずの感触でした。

その次はパッチワーク教室…と、このまま少しずつ利用者を増やすよう現在検討中であります。

4. 成果と課題

成果としては、各集落の公民館が実施する活動、三川分館が実施する活動、町公民館（本館）が実施する活動と各団体の序列、活動の内容が整理され、三川分館独自の課題でもあった「児童向け講座の定着」、「一般向け講座の活性化」にある程度の日処がついてきました。何よりも廃校が活用され、地域の活力を損なうことがなくなったことが、とても大きな成果であったと思います。

残された課題としては、集落毎の公民館組織を維持する必要があるものの、各集落において人材育成が思いのほか進まず、活動が停滞ぎみであることです。

そこで、来年度には、人材育成を図るため「ボランティア養成講座」等を公民館全体で取り組む予定です。